

具氏博物學

須川賢久譯

九

福岡第一師範學校
(學校圖書)

登錄 番號	第	號
分類		門
目次		部
總記		項
目次		次
全 10 冊 內第 9 冊		冊
分類 番號	第	號
25476		
460.0		

福岡第一師範學校

書物博

一般一

10冊內

T1A1

46

Su27e

明治十年八月

九
帙

具氏博物學

文部省

具氏博物學卷之九

須川賢久 譯

田中芳男 閲校

第二綱

アルキニクニ
タ多節動物

此動物ハ有脊動物ニ非ルヲ以テ柔軟動物ノ如ク體中ニ骸骨ヲ具有セザル者ナリ其外部ハ堅硬ニシテ内部ニ筋アリ或ハ身體ヲ圍繞スル所ノ環ヲ具スル者アリ或ハ骸骨ノ用ヲ達スル所ノ肢ヲ有スル者アリ其腦ハ小ニシテ食道中ニ存在セリ多節動物ヲ分テ四目トナス即左ノ如

第一目 環蟲類

第二目 蟹蝦類

第三目 蜘蛛類

第四目 小蟲類

第一目 環蟲類

此目ハ「ググール」氏ノ説ニ一個ノ網ト爲シテ數目數屬ヲ包有セリ「アミラタ」ト云ヘル語ハ元來環ヲ具スル動物ト云ヘル義ナリ此環蟲類ハ其體柔軟ニシテ數環ヨリ成レル者ナリ

蟲即蚯蚓ワジ 此動物ハ世人ノ熟知セル者ニシテ

地中ニ住ミ體軀ヲ螺旋狀ニ圍繞シタル筋ヲ以テ能ク地上ニ蜿蜒シ好ミテ卑濕膏沃ノ土泥ヲ餌食ス脊上ニ數箇ノ孔アリテ之ヨリ呼吸シ腦骨、足、目、耳等ヲ有セズ此動物ハ卵生ニシテ其卵ハ十二日乃至十四日間ニテ孵化シ二年乃至三年ノ齡ヲ保ツ者ナレモ常ニ鳥類ノ好ミテ餌食スル處トナル者多シ

水蛭ヒル 此奇ナル動物ハ瀦潦及流水ニ棲息シ形體ハ蚯蚓ノ如クシテ迅速ニ水中ヲ運動スル者

ナリ通常亞米利加ニ産スレドモ吸血ノ用ニ供
スルモノハ多ク歐羅巴ヨリ船齋セリ蓋歐羅巴
産ノ者ハ其性敏捷ニシテ功能多シ水蛭ノ口ハ
二個ノ唇(但シ一ハ皮ヲ刺ス器一ハ血ヲ吸フベ
キ器ナリ)ト血ヲ吞ムベキ喉トヲ以テ成ル此唇
喉ハ纖維質ニシテ柔軟撓ミ易キカ故ニ其遇フ
處ノ物體ノ形狀ニ緊然附着ス又皮ヲ刺ス器ハ
其形三稜ニシテ口内ニアリ顯微鏡ヲ用井ザレ
バ見ル可ラザル小銳齒ヲ具ス舌ハ甚小ニシテ
創口ヨリ血ヲ吸ヒ上グベキ啣子^{クワッ}ノ用ヲ達ス其

吸飲シタル血ハ數個月間水蛭ノ體中ニ停滯シ
テ竟ニ其皮孔ヨリ蒸發スルモノナラシ又水蛭
ハ水器中ニ在テ食物ナシト雖モ數月乃至數年
間生存シ得ベシ

上文ニ記載シタルモノハ尋常褐色水蛭ニシテ
身長二寸乃至四寸許ナリ馬蛭^{ホウリ}ハ之ヨリ大ニシ
テ性貪食ナリ尚其他水蛭ノ種ハ大小數多アリ
亞細亞洲某地方ノ池中ニハ水蛭甚夥多ニシテ
世人ノ茲ニ浴スル者頗危険ナリト云フ
線蟲^{ミミズ} 此動物ハ淡水又ハ水氣アル粘土中ニ居

リテ形狀ハ恰モ馬尾ノ毛ニ似タリ若シ之ニ觸
レバ其體ヲ卷換シテ糸ノ結頭ニ鬚鬚タル種々
ノ狀態ヲ爲スモノナリ

第三目 蟹蝦類

此蟹類ハ多節ノ足ヲ有スル多節動物ニシテ其
體ヲ包圍スルニ多少石灰質ヲ含蓄シタル堅硬
ノ甲ヲ以テス而シテ屢此甲ヲ變換シ大概ハ肉
食ニシテ水中ニ生スルモノナリ「グザール氏」ノ
著書ニハ此蟹蝦類ヲ一網トナシ其中ニ數目數
屬ヲ列載ス

蟹屬 此屬ハ其種數多アリテ或ハ陸地ニ棲ミ
或ハ海中ニ住ミ皆其甲ヲ脫棄スルモノナリ尋
常蟹ハ性極テ爭鬪ヲ好ミ螯ヲ奮テ敵手ヲ握把
スル時ハ肯テ之ヲ放タズシテ却テ其螯ヲ失フ
ト多シ尋常蟹ハ各所ノ海濱ニ産シ砂ヲ穿テ其
穴中ニ住シ汚穢ナル緑色ニシテ憤激スルトキ
ハ赤色ニ變スル者ナリ陸地蟹ハ其種數多アリ
テ大小形色同一ナラズ
蟹類中ノ主眼ナルモノヲ紫色蟹トス此蟹ハ其
畸異ナル形體ト旨美ナル肉味ト奇怪ナル習作

トニ因テ甚著名ナリ其餌食ハ木葉果實朽木等
 ニシテ能ク齒ヲ以テ之ヲ噬斷スト云フ又此蟹
 ハ伴ヲ結ヒテ山中ニ棲息スレドモ一年一回其
 卵ヲ産ム爲ニ海邊ニ向ヒテ出陣ス其行テ啓ク
 ヤ巖石ノ罅隙或ハ土中ノ孔穴等ヨリ突然群ヲ
 爲シテ現出シ直ニ海邊ヲ望テ行進ス而レテ河
 流ニ沿ヒテ道ヲ轉スルノ外更ニ其企望シタル
 方向ヲ誤ルヲナシ此行軍ヲナスニ通常雨夜ヲ
 以テシ大凡三太隊許ナリト云フ

兵卒蟹ヤトカリ即寄居蟲ハムシトクマハ前種ト同ク年々海邊ニ出テ

其介殼ノ大ナルモノヲ見レバ已レガ介殼ヲ脱
 シテ之ト變換スル者ナリ其變換ヲ爲スヤ海濱
 ニ散在シタル散殼ヲ轉廻レテ一々之ヲ檢査シ
 其身體ニ恰好穩當セサレハ又去テ他殼ヲ檢査
 ス斯ノ如クスルヲ數回ニシテ遂ニ適當シタル
 介殼ヲ認得セルトキハ直ニ舊殼ヲ脱棄シテ明
 年ニ至ルマデ新殼中ニ棲息ス

大頭蝦コブス屬大螯此屬ハ非凡ノ形體ヲ有スル
 者ニシテ頭前ニ突出シタル螯ヲ以テ運動シ口
 ハ大ニシテ二個ノ齒ヲ具シ尾ハ多節ニレテ其

運動ヲ扶ケ體ハ毎年變換スベキ堅硬ノ殼ヲ被
 レリ其殼ヲ變換スルヤ甚參痛ナル舉動ニレテ
 劇シキ運動ヲ爲シ遂ニ之ヲ脫棄ス爾後數時間
 頗衰弱シテ動クヲ能ハズ仇敵ノ爲ニ侵襲セ
 ラル、トアリ然レドモ大概二日間ニレテ新殼
 全ク成リ強壯ニ復レテ勇氣ヲ發シ巖石内ノ潛
 伏場ヨリ水底ニ現出シテ屢爭鬪ヲナシ其螯ヲ
 夫ニ至ル者アリ此屬ハ魚仔、小介類ウツノタマゴヲ砂中ヨ
 リ掘リ出シテ之ヲ餌食ス又此屬ノ種ハ數多アリ
 テ身長二寸乃至三寸許ノモノヨリ二尺乃至

三尺許ノモノアリ大頭蝦ハ亞米利加及歐羅巴
 ノ海岸ニ夥多生産シテ大抵ハ食料ニ供スル者
 ナリ

刺蝟カキカニ 此動物ハ淡水ニ棲ミテ大頭蝦トハ少ク
クラウビス 異ル者ナリ

河蝦カニ 此動物ハアスタクリスノ種類ニシテ六
フイン 個ノ脚ト長尾トヲ具シタル最小ノモノナリ此
 種類ハ特ニ英國ノ海濱ニ夥多ニシテ其味ノ美
 ナルカ爲ニ甚貴重セリ

青蝦クラウ 此小動物ハ上方ニ曲リタル長鼻ト六個

ノ鬚ト五個ノ節アル尾トヲ具スル者ニシテ各所ノ海濱ニ棲ミ歐羅巴ニ於テ食料ノ爲ニ之ヲ捕フル者莫大ノ數ナリ

鼠婦ワラシ 此小動物ハ地窖舊屋石下等ノ暗所ニ棲息シ好シテ木材及古キ窓格マド、ホ子ニ穴ヲ穿ツモノナリ昔時ハ之ヲ藥料ニ供シテ瘡及癆症ヲ治スレ

者ト假想セリ又世俗ニテ之ヲ猪蝨シメサリ蒙蝨モンシト名ケ其種中ニハ水中ニ生スル者アリ

第三目 蜘蛛類

此目ハアラレニクカール氏ノ説ニ從ヘバ一個ノ綱ニシ

テ其目中ニ數多ノ屬ヲ包有セリ其屬ハ皆小蟲類ニ酷肖スレドモ翼ヲ有セスレテ形體ヲ變換スルコトナク脚ハ動搖ス可クシテ通常其尖ニ二個ノ鉤ヲ有セリ又此目ノ動物ハ大概小蟲類ヲ餌食スレドモ某種ハ麩粉乾酪及數種ノ植物ヲ食フモノアリ

蜘蛛屬 此著明ナル屬ハ彎曲レタル八個ノ脚ト八個ノ目ト口上ニ八個ノ螫ツツヲ有スル者ニシテ皆卵生ナリ亞米利加ニ産スル蜘蛛ハ小ニシテ害ヲ爲サバレドモ熱國ニ産スル者ハ大サ鶏

卵ノ如クシテ毛ヲ被リ、人ヲ咬噬シテ甚危険ナリ。又蜘蛛ノ種中ニハ小鳥ヲ殺害スル巨大ノ者アリ。或ハ蠅及他ノ小蟲類ヲ餌食スル小ナル者アリ。

蜘蛛ハ其餌食スベキ物ヲ捕ヘンガ爲ニ蛛網ト名クル係蹄ヲ造作ス。此蛛網ノ絲ヲ紡ク爲ニ四個ノ節ヲ具備シテ、其各節ニハ針尖ヨリ細微ナル千有餘ノ孔穴ヲ有セリ。此各孔穴ヨリ護膜質ノ一條絲ヲ縑出ス。故ニ蛛網ノ各絲ハ單一ノモノニ非ズレテ四千箇以上ノ絁子ヨリ集成シタ

ルモノナリ。又某蛛網ノ絲中ニハ甚纖細ニシテ四百萬絲ノ合聚スルモ尚入ノ頭毛ヨリ太カラザルモノアリ。然レドモ此各絲ハ皆四千ノ絁子ヨリ成リタルモノナリ。

蜘蛛ノ蛛網ヲ造構スル法方ハ其種類ニ因リテ同一ナラザレドモ各皆驚クベキ技術ヲ顯ス者ナリ。或ハ小川溝渠ヲ渡リ、或ハ甲木ヨリ乙木ニ往來スベキ橋梁ヲ架シ、或ハ高ク空中ニ浮遊シ、或ハ陰ニ地下ニ潛藏ス。水蜘蛛ハ水泡中ニ住居ヲ構フルモノニレテ水上ヨリ之ヲ望メハ輝々

トシテ恰モ水中ニアル銀球ノ如シ又他種ハ自
後ヲ造リテ水上ヲ奔走シ海賊ノ如ク其見得ル
處ノモノヲ餌食ス

毒蜘蛛 此毒アル蜘蛛ハ以太利ニ産シテ體ノ
大サハ粟ノ如ク大概ハ洞穴中ニ棲息スルモノ
ナリ

蠶尾蟲サザリ即蠶 此動物ハ甚醜ナレトモ形體ハ大
頭蝦ニ類似シニ手八脚ヲ具シ尾ハ多節ニシテ
其尖ニ小蟲類ヲシテ大ニ恐怖セシムル處ノ曲
リタル刺劍ヲ備ヘタリ此動物ハ通常墟址及暗

所ノ石下ニ潜伏シ其尾ヲ脊上ニ負テ速ニ驅走
スル者ナリ歐羅巴ニ産スル者ハ身長ニ寸乃至
三寸許ナレドモ亞非利加及東方諸國ニテハ身
長一尺許ニ成長スルモノ往々之アリ人物ヲ嚙
ノハ劇毒ニシテ死ニ至ル者少カラズ性猛惡ニ
シテ爭鬪ヲ好ミ屢同種ノモノヲ殺害ス通常ハ
蟲類小蟲類ヲ餌食スレバ其種數多アリテ其色
同一ナラズ

酪蟲 此屬ハ其種數多アリテ皆能ク子ヲ生シ
或ハ乾酪及腐敗シタル肉類ヲ食ヒ或ハ小蟲類

ヲ食フ者ナリ又疥癬ノ如キ疾病ノ根元ハ此屬ノ特別ナル種類ニ歸スト云フ

壁^ダ蟲^ニ 此小動物ハ常ニ其後脚ヲ以テ體ヲ樹枝ニ懸ケ繁茂セル樹林ニ栖處レ其下ヲ往來スル犬馬羊等ノ體ニ固着レテ深ク肉中ニ入ル故ニ之ヲ取り出スニハ只其附着レタル部分ヲ破ル

第四目

小蟲類

小蟲類 元來小蟲即「インセクト」ト云フ語ハ截^{キリ}斷^{ナス}ノ義ニシテ小蟲類ハ二部ニ剖^{キリ}分^リレタル如キ

形體ヲ有スルニ因リ此語ヲ採テ以テ「インセクト」即小蟲ト名ク此「インセクト」ト云フ語ノ意味

第十六十八圖



小蟲類
インセクト

ハ廣クシテ蟹蝦類、蠶尾、蟲並ニ蜂類、黃蜂類、蠅類、蚊類、蝴蝶類、蛾類、蟻類等ヲ包有スレドモ吾輩ハ「グーデル」氏ノ分類法ニ從ヒ小蟲類ノ目ニハ只後ニ記レタル蜂類ヨリ蟻類ニ至ルマテノ數種

ヲ列スルノミ小蟲ノ體ハ鬚目、口ヲ備フル頭ト
足及翼ヲ附着スル胸ト胸ノ下ニ懸リタル下胸
トノ三部ヨリ成立スル者ニシテ心臟ニ似類シ
タルモノアレドモ必心臟タルヤ否未分明ナラ
ス

小蟲類ニハ眼ノ種類二個アリ一ハ單純ニシテ
平滑ナリ一ハ顯微鏡ノ如キ數鏡ヲ以テ造構セ
リ蝴蝶ノ眼ハ一萬七千二百三十五鏡ヲ有ス又
小蟲類ノ聽官ハ充分備ハラズレテ且ツ肺臟ナ
シ又固有ノ聲音ヲ發セサレドモ能ク聲ヲ發ス

ベキ機ヲ具セリ呼吸ヲナスハ體ノ兩側ニアル
二個ノ管ヲ以テス總ヘテ小蟲類ハ物品及動植
物ノ諸種ヲ餌食スレドモ各其好嗜スル物アリ
小蟲類ノ説話中ニテ最著ルキ一ノ一ハ甲ノ形
狀ヨリ乙ノ形狀ニ變換スルコトナリ故ニ此類
ハ最初ニ卵ヨリ孵化シ形容ヲ變シテ蠶又蜘蛛
ト爲リ第二ニ蛹ト成リ第三ニハ充分成長シ皮
ヲ脱シ翼ヲ生シ種類ニ從ヒテ蝴蝶、燈蛾、蜂、蝶ト
成ル者ナリ

吾輩地球ノ各所ニ於テ見タル處ノ蠶ノ形體ハ

數多アリ石及木葉ノ下ニ居ル某種ハ微少ナリ
 他種ハ身長一二寸乃至三寸許ニシテ皆小蟲類
 ノ卵ヨリ生スル者ナリ此卵ヨリ生シタルモノ
 ヲ往々ダムレ蟻アリ蠟ワシト名ヅクレドモ通常毛ヲ被リタル
 者ハケムシ蛄カマキリト稱スダハシ蟻蠟及蛄蠟ノ過半ハ鳥類ノ爲
 ニ餌食セラレハナリ
 小蟲類ハ甚短命ニシテ雙親能ク其兒子ヲ見ル
 一ノ機會ヲ得ルハ甚稀ナリ故ニ胎生動物ノ如
 ク兒子ニ乳ヲ哺セズ又鳥類ノ如ク卵ヲ孵スベ
 キ性ヲ發動セス是ヲ以テ小蟲類ノ各種ハ皆兒

子ヲ注意スルコノ勢カヲ賦與セラレサル者ナ
 リ
ムカデ蜈蚣セキレイ屬 此屬ハ小ナル蛇類ニ酷肖シ殼様ノモ
 ノヲ被リ數多ノ足ヲ具シ之ヲ以テ迅速ニ走り
 若シ之ニ觸レバ體ヲ捲キテ球狀ヲナス者ナリ
 此屬ハ通常石及糞堆チリヅカノ下ニ居ル熱帶地方ニ産
 スル者、其形大ニシテ人ヲ咬メハ毒アリ又英
 國ニ産スル一種ハ夜間殆ト螢ニ等シキ燐光ヲ
 放チ身長ハ一寸ノ四分ノ三ナリ
シラミ虱屬 此屬ハ其種數多アリ動植物各其體ニ固

第六十九圖



顯微鏡ニテ見タル蠅

ル_レ甚速ニ

第七十圖



顯微鏡ニテ見タル蚤

有ノ蟲種ヲ生ゼザルモノ甚稀ナリ
 人及四足獸鳥類魚類小蟲類ニ至ル
 マテ蟲種ノ爲ニ惱マサレストイフ
 者ナレ又蟲種ハ卵ヨリ生シ繁殖ス
 レテ直ニ計算スベカニナル多數ニ
 至ルト云フ

此小蟲ハ世人ノ善認知セル者
 ニシテ小頭ト二個ノ鬚ト人及動物
 ノ血ヲ吸フベキ一個ノ管ト相互ニ
 拱合スベキ六個ノ脚トヲ具シ其跳

躍スル時ハ此六脚ヲ一齊ニ反回シ體ノ直徑ニ
 百倍ノ距離ヲ跳過スベレ蚤ノ跳躍スル比例ヲ
 以テ馬體ト大小ヲ比較スルニ若レ馬ヲシテ蚤
 ノ如クニ跳躍セシメバ一躍ニ以テ波士敦ヨリ

紐阿連泥斯ニ達スベシ
 叩頭蟲即スナツピング、ビグ
 此有翼小蟲ハ世人

ノ認知セル者ニシテ常ニ花卉植物樹幹等ニ居
 リ其種數多アリ此小蟲ヲ捕テ之ヲ仰臥セシ
 ムレハ上ノ方ニ跳リテ故ノ位置ニ復スル者ナ
 リ南亞米利加ニ産スル發光叩頭蟲ハ身長一寸

餘褐色ニシテ胸部ノ兩側ニ光澤アル斑點アリ
 夜間ハ此斑點ヨリ著ルキ光ヲ放ツ南亞米利加
 ノ婦人ハ此蟲光ヲ用井テ職業ヲ爲シ或ハ之ヲ
 頭髮ノ飾ニ供ス又亞米利加ノ土人ハ此蟲ヲ足
 ニ結ヒ附ケ其光ニ因リテ夜行ヲナスト云フ
 螢ホタル 此小蟲ハ夜間光ヲ放ツ者ニシテ男女性ヲ
 異ニシ男ハ甲蟲コウシュウニシテ隨意ニ飛翔シ女ハ只匍
 行スヘキ小蟲ナレドモ詩人ノ之ヲ賦スルカ爲
 ニ甚著名ナリ螢類ハ夏間日没ノ後ニ牧地路側
 藪中等ニ極處セリ螢類ノ尋常ナル諸國ニテハ

其牡ヲ發火木風ト名ク合衆國ニテモ夏時ノ晚
 暮ニハ恰モ燃火ヨリ發ル火花ノ如ク螢ノ空中
 ニ飛翔スルヲ見ルベシ又其牝ハ晝間草中或ハ
 木葉中ニ隠ル、者ニシテ牝ハ牡ヨリ光輝ヲ放
 ツト、著ルキハ蓋其牡ノ心目ヲ動サシムル爲
 ト想像セリ又其牝ハ隨意ニ光ヲ發スル者ナレ
 ドモ其根元ハ未詳ナラス
 死鏢蟲 此小蟲ハ淡黒多毛ノ者ニシテ身長一
 寸ノ四分ノ一許ナレ其體ノ小ナルニ似スレテ
 時辰鏢トクノケイノ轉スルニ類セル音ヲ發スルニ因リ愚

氏ヲシテ恐怖セシムルヲノ原因トナレリ蓋此
 音ヲ聞キタル家ニテハ家族中ニ死入アル前兆
 トシテ大ニ之ヲ恐ルト云フ此音ハ頭ノ尖ニテ
 堅硬ナル物體ヲ拍ツカ爲ニ發スルモノニシテ
 絶テ怪ムベキナシ其敲拍ヲナスマ先ツ其體
 ヲ起シテ後脚ノ上ニ置キ之ヲ舂キテ強ク堅硬
 ノ物體ヲ敲クナリ其敲數ハ大概七個乃至十一
 個續クト云フ

龍眼鵝 ラシテ 此小蟲ハ夜間小ナル蠟燭ノ如ク輝ク
 處ノ頭ヲ有シ南亞米利加ニ産スル者ニシテ時

第十七十一圖



龍眼鵝

トシテハ暗夜旅行ヲナス人此蟲
 數類ヲ集メテ火把ニ代用スルコ
 アリ又世俗ニテハ叩頭蟲及螢等
 ヲ總稱シテ發光蟲ト唱フルナリ
 甲蟲 ビテ 此名稱ハ甲蟲類ノ目ニ屬
 スル數多ノ小蟲類ヲ包有セリ此目ヲ分テ數屬
 トス皆地中ニ居住ノ際ニ方テ自其翼ヲ摩擦歷
 碎センコトヲ防ク爲ニ翼外ニ外套ヲ有セリ外套
 ノ大小ト色彩トハ各異ナレドモ他ハ皆類似シ
 陸地ニノミ住スルモノアリ或ハ水陸兩生ノ者

博物志 卷之七 五 大甲蟲

アリ其主眼ナル者ハ大牡鹿甲蟲、金剛石甲蟲、埋

葬甲蟲、象甲蟲ナリ

大牡鹿甲蟲即锹形蟲クガタムシ名和

此蟲ハ身長三寸許帶

黒褐色ナリ其腮ハ牡鹿ノ角ニ肖タルヲ以テ之

ヲ大牡鹿甲蟲ト名ク此蟲ハ餌食ヲ索ムルカ爲

ニ只薄暮ニ至リテ飛翔スルノミ金剛石甲蟲ハ

黒色トニ綠色ト金色トヲ帯ビ極テ美麗ニシテ

南亞米利加ニ産ス又印度ニ産スル此種ノ外套

ハ恰モ指環及胸飾ニ嵌入シタル寶石ノ如ク爛

然タル金色ノ帯ヲ有セル美麗ノ綠色ナリ

埋葬甲蟲 此最奇ナル黒色甲蟲ハ其子ヲ養フ

爲ニ他動物ノ死ヲ地中ニ埋藏スル習作アルニ

因リ之ヲ埋葬甲蟲ト名ク其勞作ヲ成就スル勢

カハ實ニ驚怪スベシ凡死體ヲ見レハ其直下ノ

地ヲ穿チテ穴ヲ掘リ之ヲ穴中ニ陥レテ其上ヲ

蓋ノト云フ此甲蟲ニ頭ニシテ十二

時間ニ能ク一蛙ノ死體ヲ埋葬ス象

甲蟲即飛生蟲カブトムシハ南亞米利加ニ産レ

ト身長一寸餘ニシテ其頭尖ニ突出セ

ル長鼻ヲ有スルニ因リ之ヲ象甲蟲

第七十二圖



埋葬甲蟲

ト名ク甲蟲中ノ最大ナルモノニシテ蟹類ノ甲
ニ似タル黒色ノ厚甲ヲ被レリ蓋甲蟲ハ其種數
多ナレドモ合衆國ニテ世人ノ熟知シタルモノ
ハ甚尋常ナルデシブル、ビグナリ

光青アフラシメタ 此蟲ハ佛蘭西及西班牙ニ居リトナリレンデカ 秦皮連翹

等ノ葉ヲ餌食シ光澤アル帶金綠色ニシテ著ル
キ臭氣ヲ放チ藥種ニ供レテ專發胞膏ニ用ヰル
者ナリ朝來此蟲ノ身體自由ナラサルトキニ方
テ樹下ニ布ヲレキ樹木ヲ披拂レテ之ヲ捕フト
云々

終テシクシムシ 蝦ウヰク 即ウヰク 牡牛木虱 此小蟲ハ通常草木ノ上ニ居

リ世人ノ熟知セル者ニシテ黒色ノ班點ヲ帶タ
ル赤色ナリ

蚬カキ 此小蟲ハ卵ヨリ孵化シテ暫時間蟲ノ如
キ形ヲナレ卒ニ翼ヲ生シ數日ニシテ死ス此小

蟲ハ花園ノ花ヲ害スルノ外更ニ害ヲナサザル
モノニシテ其善ク世人ノ耳内ニ入ルト云フ

ハ全ク無根ハ妄説ナリ
蜚ヒキ 蟻アリ 此動物ハ世界中ノ最惡性ニシテ厭惡ス

ベキ小蟲類ノ一ナリ其種數多アレドモ皆敏捷

ニシテ夜間ノモノトス古キ家屋ノ柱又ハ箱ノ脊等ニ群集シテ衣服書籍紙類等ヲ損害ス巨大カクシ蟻ハ亞細亞亞非利加南亞米利加ニ居リテ大害ヲナス者ナリ

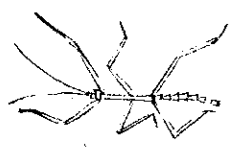
黄砂ククチエール此小蟲ハ往々ドルビートルモービグト名クル者ニシテ其形ヲ變スルヲ甚奇ナリ數年間ハ地中ニテ植物ノ根及草類ヲ貪食シテ雙眼ナク只其行進ヲ指示スベキ二個ノ鬚ヲ具スルノミ四個年ヲ經レバ則チ變レテ多用黄砂ククチエールトナリ木葉ニ損害ヲナスヲ甚レク而テ其適當

サル季候ノ間ノミ生活シテ速ニ死ス又時トレテハ大數群集シテ其通路ニ生スル植物ヲ蝕盡スルナリ

遊葉蟲屬 此屬ハ枯槁シタル木葉ニ類似シテ印度ニ産ス速ニ退色スベキ美麗ナル綠色ニシテ頸ハ頭ヨリ長ク脚ハ六個アリテ各節アル者ナリ

螳螂カマキリ此奇ナル屬ハ主トシテ暖地ニ棲息シ往々身長三寸許ニ成長シテ或ハ之ヲ木葉蟲カマキリト名ク此屬ハ其棲息スル處ノ植物ト一

第七十三圖



ナラレ
一名
タケノフレ

リト又此蟲ハ他ノ小蟲類ヲ餌食シテ之ヲ殺害
スルトキハ甚ニキ勇氣ヲ顯ス者ナリ

キリキリス
ス
此小蟲ハ其變種無數ナリ皆地中ノ孔穴
ニ産シタル卵ヨリ孵化シ數日間ハ蟲類ノ形狀

色ナル者ニシテ植物ノ一部分カ

ト誤認シ易シ又昔時ハ世人此屬

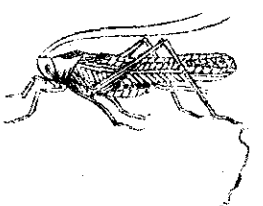
ニ就テ數多ノ疑迷ヲ抱キレト云

フ古昔ノ記者曰ク童子此蟲一相

逢フ而テ道ヲ問ヘバ則チ其前脚

ヲ伸長シテ善ク道ヲ教フル者ナ

第七十四圖



蝻斯

食ハ皆草類ナリ

「ガチージド」此蟲ハ最快樂ナル小蟲類ノ一ニ
シテ其腿ヲ摩擦シテ好調ノ音聲ヲ發スル者ナ
リ

ラナレテ棲息シ他ノ小蟲類ト均シ
キ勤勞ヲナレテ徐々ニ行歩シ然ル
後其^{ウカ}上皮ヲ破リ翼ヲ具ヘテ再出シ
牧場ニ群集シ能ク風景ヲシテ快活
ナラシム蝻斯ハ大概夏間噪鳴スル
者ニシテ日没ニ際シ殊ニ甚シ其餌

蟋蟀 コホロキ 此小蟲ハ形體螽斯ニ類似シテ其種數多
 アリ皆帶銹褐色ニシテ或ハ家屋ニ棲息シ或ハ
 郊野ニ棲息ス烟筒蟋蟀即尋常蟋蟀ハ冬間竈ノ
 邊ニテ音聲ヲ發スル者ニシテ性寒冷ヲ恐レ火
 邊ヲ去ルヲ稀ナリ且頗貪食ニシテ麩色砂糖麩
 粉等ヲ餌食レ氣候嚴寒ノ時ニ非レハ決シテ鳴
 キ止ムヲナシ オニホロキ 野生蟋蟀即油胡蘆ハ日没後ニ顯
 レ其穴口ニ坐シテ聲ヲ發スル者ナレドモ性怯
 怕小心ナルカ故ニ世人之ヲ見ルヲ甚稀ナリ
 蝗蟲 バッタ 即草蝻 バッタ 此小蟲ハ其種數多アリ其種ハ身

長六寸許アレ凡他種ハ纔ニ一寸ニ過キス此種
 類ハ世界ノ各所ニテ世人ノ善ク認知セル者ニ
 レテ特ニ暖國ハ大ニ之ヲ怖ルナリ亞細亞及
 亞非利加ニテハ蝗蟲ノ植物ヲ損害スルヲ非常
 ニシテ之ガ爲メニ廣大ナル飢饉ヲ來スヲ往々
 之アリ千七百九十七年ニハ此蟲南亞非利加ノ
 地方大凡二千四万里ヲ被覆シ近傍ノ青々タル
 草類ヲ食ヒ盡シテ終ニ強風ノ爲ニ海中ニ放逐
 ラレタリ此時海濱五十里ノ間其屍堆積シテ高
 サ三尺乃至四尺ノ山丘ヲナシ遂ニ腐敗セルニ

因リ空氣ヲ汚レタルヲ百五十里ヲ隔タル地方ニ達セシト云フ

東方諸國ニ産スル尋常蝗蟲ハ身長三寸許即聖經ニ記載スル所ノ者ナリ而シテ其羽化セザルノ間ハ思フニ此蝗蟲ヨリモ更ニ甚シキ損害ヲナスモノナラン亞非利加ノ巴爾巴利國ニテハ鹽ヲ注テ蝗蟲ヲ煎燒レ之ヲ食用ニ供ス其他東方ノ諸國モ亦之ヲ食スル者アリ

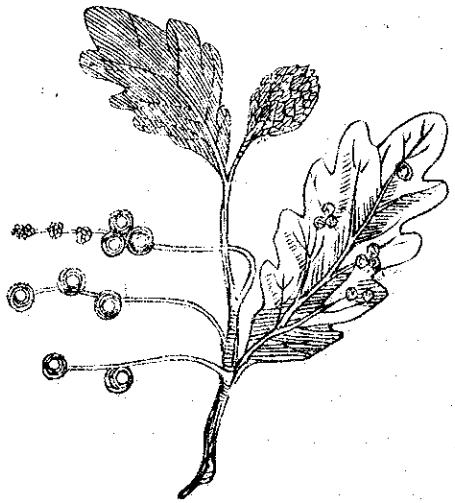
臭蟲即寢床木虱 此厭惡スベキ小蟲ハ家婦ノ懶惰ナル家ノ床ニ生ジ人ヲ惱ス者ニレテ其體

ハ三部ニ分レ二個ノ褐色小眼ヲ有シ翼ヲ具セザル者ニレテ其種頗多シ又合衆國ノ庭園ニ尋常ナル南瓜臭蟲ハ惡シキ臭氣ヲ放ツ爲ニ著名ニ屬ス野臭蟲ハ翼ヲ有スルモノニレテ其種甚多シ其最大ナルモノヲシリナム臭蟲トス身長三寸許性貪食有害ノ者ニレテ蛙類、鳥類、魚類等ヲ食フ

呀囉蟲 此小蟲ハ植物上ニ棲息スル者ニレテ韋及他ノ物品ヲ染ム可キ紅染料ノ洋紅ヲ製スル爲ニ有名ナリ墨西哥及南亞米利加ニテハ盛

ニ之ヲ畜養スト云フ

第十七十五圖



柵樹ニ附着セル没食子

没食子蟲 ガバインセクト 此小蟲ハ牙
關蟲ト同屬ニシテ亞細
亞ニ生スル柵樹ニ附着
セル處ノ瘤ノ如キ物ノ
中ニ在テ生育ス蓋此瘤
様ノモノハ柵樹ノ皮ニ
穴ヲ穿テ其中ニ卵ヲ生
スル一種小蜂ノ造構セ
ルモノニシテ此樹ノ液

汁其卵ニ附着スルニ因リ堅硬ト成リテ樹ト共
ニ成長レ遂ニ世人稱スル所ノ没食子トナル且
此蟲ハ中空ナル瘤ノ如キモノノ中ニテ孵化レ
漸々生長シテ蛹トナリ又小羽蟲ニ變レ此瘤様
ノ物ヲ啣破レテ終ニ其外面ニ出ツト云フ

蜻蜓 トシガ 此蟲ハ小蟲中ノ大ナル者ニシテ合衆國
ドラゴンフライ

ニ尋常ナリ恰モ紗ノ如キ四個ノ翼ノ具シ頭ハ
大ニシテ圓ク體ハ長クシテ色頗美麗ナリ

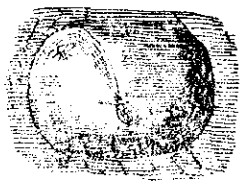
蜂蟻屬 アイズライ 此屬ハ其種數多アリ初メ皆卵ヨリ生
レテ繭ノ如キ形體ニ變ジ終ニ蝴蝶ニ似タル美

麗ノ羽虫ニ變ズ其翼ハ透明ニシテ塵埃ヲ蒙ル
コナレ又此屬ハ一時乃至二時間モ日ニ向テ遊
戯レ而後死スト云フ

砂接子
アトライオン

此小蟲ハ暖國ニ棲息シ充分成長セル

第一千七十六圖



砂接子及ヒ其洞穴
アトライオン

時ハ身長一寸五分許其生活ヲ營
ムノ法方甚奇ナリ廣サ三寸深サ
二寸ニレテ漸ク下底ニ達ス可キ
穴ヲ穿掘ス而シテ餌食ト爲スベ
キ處ノ蟻此穴邊ニ來ル時穴中ニ
滑リ落ルヲ待チテ直ニ之ヲ食フ

第一千七十七圖



アントライオン
ヲ生ズル羽虫
即蚊蟻類

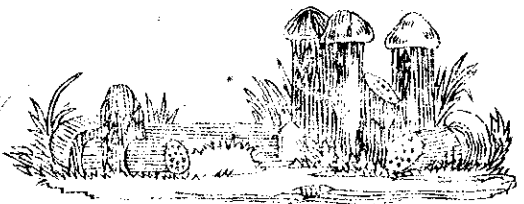
蟻若シ穴底ニ落テヌシテ中途ニ止
ルトキハ之ニ向テ砂ヲ投シ蟻ヲ疲
弊セシメ穴底ニ陷シ速ニ之ヲ食フ
茲ニ記スル圖ハアントライオンシテ
生ズル羽虫ノ形態ナリ

蟻 此小蟲ハ其種數多ニシテ或ハ

赤色或ハ黒色或ハ翼ヲ具シ或ハ翼ヲ具セサル
者アリ而シテ皆同大ナル他ノ小蟲類ニ比スレ
ハ甚剛毅ニシテ絶ズ勞カシ屢自己ノ身重ヨリ
十倍ノ重荷ヲ運送ス蟻類ハ專食肉小蟲ニシテ

動物ノ柔軟ナル部分ヲ餌食スルヲ甚速ニシテ

第七十八圖



亞非利加ニ産スル蟻塚

忽チ之ヲ食ヒ盡シ數族相共ニ棲息スル者ナリ蟻類ハ冬間身體自由ナラザル者ナレトモ四五^月ニ至レハ無數羣ヲナシテ蟻^{アリ}蛭ヨリ顯出ス最初ニハ翼ヲ具セサル者ノ外更ニ他種ヲ見ル^ナレシ此無翼者ハ則勞力ヲ爲ス蟻ニレテ蟻類中ノ最小ナル者ナリ然レド

モ持トシテハ此牡共ニ無翼ニレテ勞力セサル者アリ又蟻塚ト名クル一種ハ蟻塚ヲ守護スル

第七十九圖



牡蟻

蟻兵

ノミニシテ大蟻公ト稱スル處ノ一蟻ヲ奉戴セリ此大蟻公ハ一時間ニ二萬四千ノ卵子ヲ産スル^レ往々之アリ

他ノ蟻類カヲ共ニレ大蟻公ノ産ミタル卵子ヲ能ク注意ス此卵ハ最初至小ニレテ見エ難キホトナレドモ漸々變シテ白色小蛆^{チヤキ}ノ如ク遂ニ蟻

卵ト想定ス可キニ至ル而シテ蛆ノ如キモノハ
暫時間蛹様ノモノヲ以テ圍包セラレ後此包皮
ヲ破リテ外ニ出テ、蟻トナルナリ
蟻ハ非常ニ其兒子ヲ愛シ甚注意シテ之ヲ養育
ス若シ世人ノ蟻塚ヲ擾亂スルアレハ其中ニ住
スル蟻類大ニ苦心^シシテ盡ク聚合セル白色物ノ
周圍ニ集リ各之ヲ口ニ銜^ルミテ安全ノ地ニ運送
ス此白色物ハ即蟻ノ卵子ナリ又蟻ノ忍耐ト恒
心ト勇氣トハ實ニ驚嘆スヘキモノニシテ常ニ
之ヲ喻ヘテ勉強ノ諺トナスニ至レリ

蟻ハ世人ニ最緊要ノ教訓トナルベキトテ聖經
中ニ述ベタリヨロモ^シ氏曰懶惰ナル者ハ蟻ノ
行爲ヲ見テ之ヲ熟思シテ聰明ノ人トナル可
シト又有名ナル武將^トム^ルハ^ハ氏ハ一蟻ノ爲ニ
大ニ其心ヲ感動シタルコトアリ同氏嘗テ敵軍ヲ
逃レ敗壞シタル家屋内ニ匿レテ數時間獨坐シ
殆ト失望シタル時偶然高壁上ヲ見シニ一蟻已
ノ體ヨリモ更ニ大ナル重荷ヲ運送セルアリ乃
チ意ヲ留メテ其舉動ヲ熟視セシニ其重荷ヲ地
上ニ落スコト六十九回遂ニ七十回ニシテ全ク

之ヲ高壁ノ上ニ揚ケタリチムル氏喟然トシテ嘆シテ曰ク我此小蟻ノ大勉強ヲ見テ以大ニ吾ガ勇氣ヲ鼓舞シタリ我必誓テ蟻ノ教訓ヲ忘ルヘカラズト

其蟻ハ其小蟲類ヲ畜養シ喻ヘハ世人ノ牝牛ヲ飼ヒテ乳汁ヲ取ルト同一ナル方法ヲ以テ此小蟲ヨリ甘キ液汁ヲ榨取スルノミナラズ常ニ此小蟲ヲ所有シテ其家屋トナスモノアリ若シ他ノ蟻類之ヲ畜養スル樹木ノ枝或ハ植物ノ莖ニ攀上スル片ハ公然タル所有主ノ權ヲ以テ其蟻

ヲ逐斥シ乳汁小蟲ノ周圍ヲ忙シク奔走ス又時トシテハ小蟲ヲ畜養スル處所ノ周圍ニ小墻ヲ構スルヲ恰モ獸圈ノ如ク安全ニ之ヲ保護スト云フ又其蟻ハ前種ヨリモ簡易ニ乳汁小蟲類ヲ畜養スルノアリ此小蟲ノ大羣ヲ驅テ自己ノ巢中ニ輸送シ巢ノ周邊ニアル草莖類ヲ以テ之ヲ養ヒ其卵子ヲ養護注意スルヲ恰モ自己ノ卵子ニ異ナラス若シ其巢ヲ侵襲スルモノアレハ則チ卵子ヲ安全ナル所ニ運送ス又通常ハ早ク此卵ヲ孵ヘサント欲シ侵襲セラレシ時ノ如クニ

運送シテ日光ニ曝露ス斯ク爲ス_{トハ}全ク滋養
食物ノ適當トナル供給ヲ得ンカ爲ナリ
蟻類ハ勇氣アル爲ニ著名ニレテ其體ハ甚小ナ
レドモ絶エテ危険ヲ冒ス_トヲ恐レズ敵ニ向ヒ
直ニ之ヲ咬ミテ毒ヲ其傷中ニ灌注ス又咬ミ付
キテ放ツ間モナク自己ノ體ヲ數片ニ劈カルベ
キ強敵ヲ恐レスレテ之ニ向フ_ト往々之レアリ
其甚レキハ人ヲモ恐レサルニ至ルモノナリ
蟻類ハ武備ヲ具ヘ勇氣アル小蟲ニレテ常ニ其
近隣ノ者ト和親スル_トナシ一尺四方ノ地ハ乃

チ蟻ノ一王國ニレテ家畜小蟲(即乳汁ノ如キ甘
汁ヲ取ル小蟲)數群ハ恰モ人家ノ畜獸ノ如ク
甚貴重ス而レテ蠅及甲蟲ノ體ハ最價アル所有
物タリ斯ク蟻ハ人間ノ如クニ國家ヲ有スルモ
ノナレバ其戰鬥及爭亂ヲ爲ス_ト更ニ怪ムニ足
サルナリ蓋蟻ノ兩國間ニ戰爭起ル_トハ數萬ノ
蟻兵兩城府ヨリ出陣シ里程各相半シタル所ニ
於テ會戦レ兩兵龍虎ノ勇ヲ振テ決闘ス此戰場
ハ二尺乃至三尺四方ノ地ニ過キザレドモ尚_ト人
世ノ戰場ノ如ク數千ノ蟻兵各カヲ極メテ相闘

ト互ニ毒氣ヲ吹キテ甚シキ臭氣ヲ空中ニ放チ
敵ヲ殺害スルコト恰モ火藥ヲ用ヰルニ異ナラス
既ニシテ數千ノ死者傷者地上ニ散布レ或ハ囚
虜トナリテ敵陣ニ趣クモノアリ或ハ救援ヲナ
ス爲ニ驅走スル者アリト云フ

蟻類ハ一般ニ同種類ナレバ其何ヲ以テ彼我ヲ
辨知スルカ未ダ之ヲ説明スルコト能ハス蓋其形
體彩色臭氣等皆同トニレテ蟻ノ兵卒ハ人ノ兵
卒ノ如ク各色ノ同装ヲ以テ區別ス可エザレト
モ同隊相闘フコト甚罕ナリ偶相争フコトアルモ忽

チ其誤ヲ悟リテ直ニ親友トナル又夜ニ至レハ
戰爭ノ止メ兩軍交綫シテ各其城府ニ歸リ明朝
新ニ戰陣ヲ構到底雨天ノ爲ニ兩兵相分レテ全
ク戰鬪ヲ忘却セサル間ハ此争亂休止スルノ期
ナレト云フ

蟻類ハ上文ニ記載セシ如ク兩軍相對シテ戰爭
スルノミナラス或ハ突然近隣ノ都府ヲ襲撃レ
テ之ヲ掠奪スルコトアリ總ヘテ蟻類ノ企望ハ極
メテ大ナルモノニシテ若シ世人ノ之ヲ目撃ス
ルカ或ハ之ヲ演說スルコトナキハ決レテ之ヲ

確信スルヲ能ハサル者ナリ既ニ前條ニ述レ如ク勇氣アリテ争鬪ヲ好ム蟻類ハ他ノ種類ノ如ク勞カヲ爲サズ其故ハ黑人蟻ト名クル黑色蟻ノ巢ヲ襲ヒ其兒子ヲ捕ヘ來リテ奴隷トナレ之ヲ使役スルヲ以ナリ

此捕獲レタル兒子成長スルトキハ之ニ命シテ家屋ノ營繕食物ノ集收及主人ノ兒子ニ伴ヒ或ハ主人ニ食物ヲ供レ或ハ主人ヲ負テ巢ノ周圍ヲ巡廻スル等ノ勞カ工作ヲナサシムル者アリ淡黑色蟻即主人トナル蟻ハ年々其奴隷蟻ノ數

ヲ増加ス黑人蟻ノ蟻塚中ニ作エスベキ蟻ノ多ク生スル時ハ淡黑色蟻ヨリ其近隣ニ向テ間者ヲ派出シテ行軍ノ準備ヲナス此間者歸リ來レハ鬚ヲ以テ互ニ相觸レテ信號ヲ爲レ直ニ黑人蟻ノ府城ヲ襲フカ爲ニ出陣ス其行軍ノ法ハ甚奇異ニシテ第一ニ八個乃至十個ノ蟻進ミテ先導ヲナシ一隊ヲ前ノ屯營ニ送り又退テ次隊ノ先導ヲ爲ス斯クスルヲ數回ニシテ全軍悉ク屯營ニ達セザル間ハ絶ズ進退周旋スト云フ
黑人蟻ノ府城ヲ守衛スル者敵兵淡黒蟻ノ襲ヒ

來ルヲ見レハ即時憤激突進シテ大ニ之ト闘フ
 數多ノ援兵之ヲ見テ防戦スレドモ敵鋒當ル可
 ラス遂ニ敗走シテ蟻垤蟻垤ハ數階ノ最下層ニ
 潛匿ス此ニ於テ敵蟻ノ大軍進テ城門内ニ入り
 或ハ城壁ニ穴ヲ穿チ内城ニ突入シ直チニ黒人
 蟻ノ小年兵ヲ擒獲シ其父母ノ憂慮ヲ顧ミズ之
 ヲ率テ城外ニ出テ他ノ掠奪品ト併テ之ヲ輸送
 シ本國ニ凱旋ス此淡黑蟻ノ凱旋スルトキ其奴
 隸蟻巢外ニ出テ之ヲ迎フル景况ハ實ニ珍奇ト
 謂フ可キナリ此奴隸蟻ハ先ツ囚虜少年蟻ヲ巢

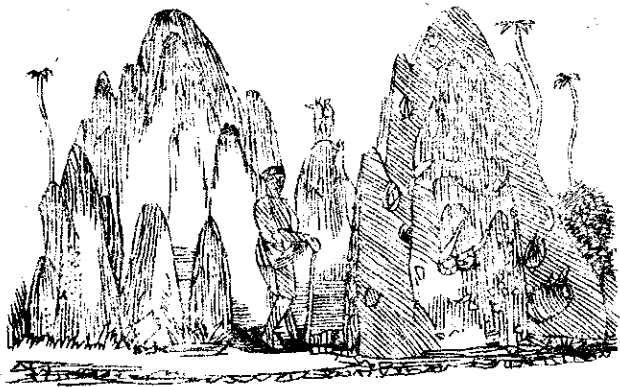
内ニ導キ而後兵士ニ食物ヲ供シテ厚ク之ヲ慰
 勞シ大ニ其凱陣ヲ悦ベル者ノ如シ而シテ淡黑
 蟻モ亦善ク其忠義ナル奴隸蟻ヲ慈愛撫育シ若
 シ他蟻ノ我軍ヲ襲フコトアレバ其第一ノ注意
 ハ奴隸蟻ヲ安全ノ地ニ護送スルコトナリ總テ奴
 隸蟻ハ全ク少年ノ際ニ捕獲セラレシ者タルニ
 因リ其他郷ニ在ルコトヲ知ラズシテ故郷ヲ思フ
 ノ情ナレ又奴隸蟻ハ縱令其本國ニ居ルトモ全
 ク當時ト同シ勞力ヲ爲スベキ者ナルガ故ニ他
 邦ニ在リテ奴隸タルモ更ニ不幸ナル者ニ非ス

博學 卷九

三

亞非利加及印度ニハ白蟻ト名クル一種ノ蟻ア

白蟻塚ノ内部



白蟻塚

リ此小蟲ハ其得テ食フベ
キ各品中ニテ最嗜好セル
モノヲ木材トス一夜ノ間
ニ室内木製ノ物品ヲ盡ク
壞損スルト往々之アリ其
住家ハ甚驚嘆スベキモノ
ニテ粘土ヲ以テ造構セリ
其形狀ハ尖形糖ニ似テ往
々高サニ丈ニ至ル者アリ

第十八千圖

世人其上ヲ踏ム此更ニ崩壞スルノ虞ナシト云
フ又南亞米利加ニ一種ノ蟻アリ此蟻ハ綠葉ヲ
以テ巢窩ヲ造構ス其數葉ヲ收拾スル間ニハ各
自其體ヲ全ク蔽藏スベキ大葉ノ一片ヲ携來ル
ニ因リ之ノ日傘蟻ト名ク

此他蟻ノ種類甚多ク或ハ至小ニシテ肉眼ニ見
エ難キモノ或ハ極々テ大ナルモノ等アリ

黃蜂屬 此屬ハ性猛烈ナル小蟲ニシテ有毒ノ
刺劍ヲ具有セリ其體ノ大ニシテ環テルト速
ニ飛翔スルトヲ以テ蜜蜂ト區別ス黃蜂ハ通

第十八十一圖



黃蜂ノ巢

常地上ニ巢ヲ造構シ社ヲ結ヒテ
 群集ス往々一社ニ一萬乃至一萬
 二千餘群居ハルコトアリ此蜂モ
 亦蜜蜂ノ如ク其種類ヲ分ナテ三
 等トス即工蜂オルケル蜜公蜂ドワシ王是ナリ每
 一蜂王ニ必數百ノ蜂臣從侍セリ其住家ノ造構
 ハ巧妙ニレテ數階アレドモ種類ニ因リテ其造
 法及習作等モ亦異ナリ黃蜂ハ蜜蜂ノ大賊ニレ
 テ其蜜ヲ奪ヒテ食トレ又果實植物ノ肉及液汁
 等ヲ餌食スル者ナリ

第十八十二圖

大黃蜂ホルツト

此蜂ハ兩大陸ニ産スル黃蜂ノ大種ニ
 レテ性勇猛害心アリ好ミテ肉ヲ



蜜公



蜂王



工蜂

食ヒ往々二三頭相集テ小鳥ヲ侵
 襲レ之ヲ殺レテ其肉ヲ食ス其ニ
 刺サルレハ劇甚ナル疼痛ヲ起ス
 ト云フ
 蜂 此小蟲ハ其種數多アリテ最
 緊要ナルモノハ蜜蜂ナリ此蜂ハ
 小ニレテ無用物ノ如ク見ユレド
 モ世界中ニテ最奇異ナル動物ノ

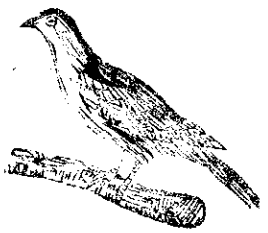
一タリ蜜蜂ハ多ク野生ニシテ樹木ノ空窩中ニ
巢ヲ造構スル者多シ亞米利加及他ノ諸國ニテ
ハ蜜ヲ得ンガ爲ニ野生蜜蜂ノ巢ヲ搜索スルヲ
以テ職業トナス者數多アリ

蜂巢ヲ發見スベキ通常ノ法方ハ蜂ヲ誘引スル
爲ニ匾平ナル板或ハ瓦ノ上ニ多少ノ蜂麵包ハチマツ
ノ集ムル處ノ花粉ニシテ其色褐ノ苦味アリ
之ヲ以テ其兒コ子ヲ養フ名ケテ蜂麵包ト云フ
ヲ置キ白色ノ顏料エナメルヲ以テ其周圍ニ環ヲ畫クナ
リ斯クナレ置クトキハ蜂飛ヒ來テ常ニ板又ハ
瓦ノ縁ニ止リ其餌ニ達スル一ハ必ス顏料ノ上

ヲ通行セザルヲ得ズ故ニ其體ヲ白色ニ裝ヒテ
飛去スベシ此白蜂ヲ認メテ其巢ヲ搜索スルノ
便トナレ懷中羅織盤ヲ以テ其行路ヲ定メ置キ
而テ又遠隔セル他所ニ到リテ前法ヲ行ヒ甲所
ノ方向線ト乙所ノ方向線トヲ比較シテ以テ容
易ニ巢ノ位置ヲ發見スベシ其故ハ此兩線ヲ長
ク延スルハ則チ二線ノ相合スル所ニ必ス蜂巢
アレハナリ

亞非利加ニテ蜜蜂ヲ捕フル者ハ蜜蜂ハチ導者ドウシャト名クル小鳥ノ補助ヲ仰フト云フ又同國ニテ

第十八十三圖



蜜蜂導者
ホニゴイ

ホニゴイテハ喜望峰産麴ハ其
追ハント欲スル蝻ヲ明白ニ認
メ得ンガ爲ニ日没頃ニハ其一
足ヲ眼上ニ翳シ飛翔スル蜜蜂
ヲ見レハ其巢ニ歸ルヲ知テ之
ヲ追行スト云フ

家畜蜜蜂ハ世人ヲシテ己ガ奇異ナル習作アル
下ヲ認知セシム凡蜂ニ蜜公、蜂王、紅蜂等ノ三種
アル下ハ此蜂ノ巢ニ於テ發見セリ蜜公ハ蜂仔
ノ父ニシテ性怠惰他ノ二種ヨリ甚大ニシテ飛

翔スルトキハ高調ノ聲ヲ發スルセノナリ蜂王
ハ蜂仔ノ母ニシテ蜂巢ヲ管轄シ之ニ隨從スル
臣下甚多ント云フ
此蜂王死レバ同社ノ衆蜂狼狽擾亂ス其第一ニ
此大事件ヲ發見セシ蜂ハ狂亂シテ巢ノ周圍ヲ
巡翔シ蟲鬚ト名クル小鬚ヲ以テ相逢フ處ノ同
社各蜂ニ觸レテ大事ヲ告ケ闔社ノ蜂皆此事件
ヲ知リ全巢中擾亂スルニ至ルマテハ休止セス
ト云フ巢中ノ混雜ハ四時乃至五時間許モ續ク
モノナリ斯テ後衆蜂ハ此不幸ヲ補フベキ處分

ヲナシテ之ニ着手セリ顧フニ世界中ニテ此不幸ヲ補フ處分ノ如キ奇事ハナカル可シ衆蜂ハ異形ナル數多ノ大蜂房ヲ造リ此各蜂房ノ内ニ工蜂ノ一兒仔ヲ入レテ之ニ特別ノ餌食ヲ供セリ此各工蜂ノ兒仔ハ一二日間ニシテ絶大者一ナリ遂ニ蜂王ト成ル而シテ此各蜂王ハ皆一巢ノ君主タリ

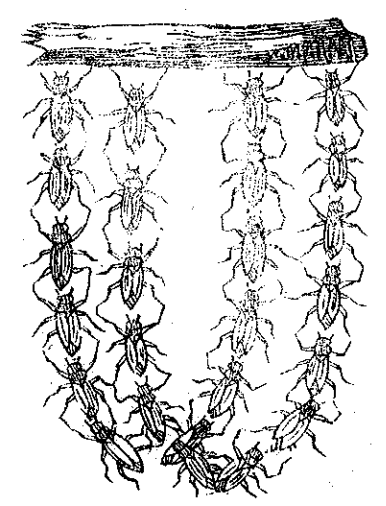
衆蜂若シ其蜂王ヲ失ヒタル時相續スベキ蜂仔ナケレバ作工ヲ廢止レ數日ニシテ皆死ス然レドモ若レ此混雜中ニ蜂王歸リ來レバ直ニ靜謐

ニ歸スル者ナリ其故ハ衆蜂皆能ク蜂王ヲ記憶シテ衆蜂ト之ヲ區別スルヲ以ナリ又前蜂王ヲ失ヒタル後至急ニ新蜂王立片ハ之ニ勤仕シテ食物ヲ供スル者ナレ故ニ或ハ飢餓ニ或ハ衆蜂ノ爲ニ厭倒セラレテ以テ死ス然レドモ二十四時間ヲ經過シテ蜂王ヲ失ヒタル哀歎消盡スルトキハ善ク新蜂王ヲ容レテ其統轄ヲ受ケ衆蜂之カ周圍ニ群集シテ輪番ニ鬚ヲ以テ新王ニ觸レテ蜜ヲ供シ順序ヲ立テ輪坐ス新王運動スルトキハ輒チ守兵トナリテ之ニ隨行スト云フ

蜂王ノ産スル兒子ハ甚數多ニシテ一蜂王ノ兒
 子ノミニテ一巢内ニ充滿セリ蜂王ハ一季ニ六
 萬乃至七萬ノ卵ヲ産ムト往々之アリ故ニ一巢
 ニハ決シテ二蜂王アルトナシ此卵子ノ中ニテ
 或ハ蜂王ト成リ或ハ蜜公ト成リ餘ハ皆工蜂ト
 ナルナリ又群蜂巢外ニ出ルトキハ蜂王之ノ嚮
 導セリ而シテ蜜公ハ蜂蜜ヲ集收セヌ又蜂房ヲ
 造ルトキ更ニ其助手ヲナストナシ故ニ怠惰ニ
 シテ空ク光陰ヲ送ル人ヲ呼ンテ蜜公ト稱スル
 ト往々之アリ蓋蜜公ハ未タ冬天ニ至ラザル前

ニ巢外ニ逐出セララルベシ其故ハ勉強ナル工蜂
 ノ集收セシ蜜ヲ食ハサラシメニカ爲ナリ
 蜜蜂ノ一群新巢ニ入レバ直ニ蜜ヲ貯藏シテ其

第一千八百四圖



衆蜂蠟ヲ造ル

兒子ヲ養育スベキ蜜
 窩ヲ要スルナリ此蜜
 窩ハ世人ノ想像スル
 如ク花ヨリ得ルニ非
 スシテ蜂體ヨリ出ル
 蠟ヲ以テ造ル者ナリ
 若シ此蠟ナキ片ハ之

ヲ造ルヲ能ハズ此蜂蠟ハ衆蜂ノ動カサル間ニ
善良品ヲ出ス者ニシテ之ヲ得ニガ爲ニ衆蜂ハ
互ニ其脚ヲ結合シテ體ヲ空中ニ懸ク斯ノ如ク
シテ二十四時間止息シ然ル後衆蜂ハ其體ヨリ
出シタル蠟ヲ刮削シ之ヲ以テ蜜窩ヲ造リ各其
舌ヲ鏝ノ如クニ使用スト云フ蜂ノ蜜窩ノ造ルヤ
其勉強ト熟練ト方略トハ實ニ驚嘆スヘキモノ
ナリ

蜜蜂ハ世人ヲ始メ蜜蜂導者前出ホニシテル
名歌ノ外尚數多ノ仇敵ヲ有セリ黃蜂、大黃蜂ハ蜜

蜂ノ花ヲ搜索スル間ニ之ヲ襲フト云フ又蛾ハ
蜂巢ニ忍ビ入りテ蜜蜂ニ大害ヲ與フルヲ往々
之アリ蜜蜂ハ夜間守兵ヲ置キ以テ其巢ヲ警衛
セシム吾人月光ニ乘シテ散步スルハ其四方
ヲ回顧スル處ノ守兵ヲ認知シ得可シ若シ敵ノ
近クアレンバ守兵高聲ヲ放テ信號ヲナス衆蜂
此聲ヲ聞ケバ直チニ突進シテ之ヲ救援ス又蛾
ノ巢内ニ入りタルトキハ衆蜂死ヲ極メテ之ヲ
刺シ遂ニ之ヲ巢外ニ追出ス然レドモ蛾ハ既ニ
巢内ニ於テ其卵子ヲ産スルヲアリ此卵孵化シ

テ蛆トナレバ衆蜂止ラ得ス其巢ヲ棄ルテ往々
之アリ又蠶腰蛾ノ至大ナルモノハ往々蜂巢ニ
進入シ衆蜂ヲシテ動クヲ能ハサラシムル嚮音
ヲ發シ而後蜂蜜ヲ掠奪スト云フ

地蜂 ホシトビ 此蜂ハ相類ノ拙陋ナルカ爲ニ世人ノ認

第十八十五圖



地蜂

知ヤル者ナリ枯艸ノ野中ニ就キテ
苔ヲ以テ巢窩ヲ造構ス其物料ヲ集
收スルノ法甚奇ナリ一蜂先ッ其巢ヲ
造ル可キ地ヲ後ニシテ苔上ニ坐シ
其齒ト前脚トヲ以テ苔ノ小片ヲ剝

取り之ヲ中脚ニ移シ再ビ之ヲ後脚ニ移レカ
極メテ後脚ヲ伸シ之ヲ其次ニ坐スル處ノ蜂ニ
遞送ス次蜂モ亦同法ヲ以テ之ヲ其次ニ傳フ斯
ノ如クスルヲ數回ニシテ遂ニ苔ノ小片ヲ營巢
ノ地ニ運送ス其巢ハ粗ナル蠟ヲ以テ裏面ヲ塗
抹シ拙劣ナル僅少ノ蜜窩ヲ安置ス
地蜂ハ酪蟲類ノ小蟲ニ惱マサル者ニシテ無
數ノ小蟲其體ニ居ルテ往々之アリ然レ地蜂
ハ又此酪蟲ヲ掃除スヘキ愉快ノ方略ヲ有セリ
其酪蟲ノ爲ニ惱ミタルモノハ蟻垤ニ行キ搔抓

跳躑シテ蟻ノ出テ來ルヲ待ツ既ニシテ衆蟻出
テ來リテ此酪蟲ヲ盡ク奪ヒ取り然ル後之ヲ巢
外ニ追逐ス地蜂ハ其體ノ仇敵ヲ拂ヒ盡サシメ
テ即自得シテ以テ飛去ルト云フ
蜂屬中ニハ自勞カシテ其巢ヲ造リ獨居ヲナス

第一千八十六圖



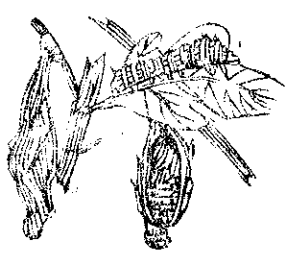
泥工蜂

處ノ蜂種數多アリ此種中ニテ最
感スヘキモノハ泥工蜂ナリ此蜂
ハ粘土ノ小片ヲ以テ古壁ノ穴中
ニ巢窩ヲ造構シ口徑殆ド指環ノ
如キ四個乃至五個ノ蜂房ヲ造リ

卵子ヲ其各蜂房肉ニ産ムト云フ木匠蜂ハ堅牢
ナル二個ノ齒ヲ以テ古キ柱等ニ深サ一尺許
小兒ノ指より太キ穴ヲ穿テ巢ノ其内ニ造構レ
テ卵ヲ産ミ錐骨ト口ヨリ出ス護謨質ノ流動物
トヲ以テ各卵ヲ分別シ又巢内ニ突入スル者ヲ
防ク爲ニ其入口ヲ閉塞スト云フ室具匠蜂類ハ
樹木ノ花葉ヲ以テ其巢裏ヲ覆フニ因リ之ヲ室
具匠蜂ト名ツク又一種截葉蜂ト稱スル者ハ地
中ニ穴ヲ穿テ綠色ノ葉ヲ以テ其蜂房ノ裏面ヲ
覆フ他ノ一蜂ハ梨ノ形ニ古木ヲ穿テ巢ヲ造

リ光澤アル深紅色ノ葉ヲ擇ヒテ之ヲ其周圍ニ懸ケ卵ヲ産ミテ後土ヲ以テ全ク其巢ヲ被覆ス
 蠟 此種ノ動物ハ鱗アル翼ヲ具フル鱗翼部ノ兒仔トシテ世人ノ認知セルモノニシテ蝶類及

第千八十七圖



蠟蛾及外殼

蛾類等ヲ包有セリ蠟ノ種ニ至テハ其數夥多ニシテ大小形體彩色等各異ナレドモ生活ノ方法ハ皆一ニシテ其形ヲ變スルコトモ亦相同シ蠟ノ數種ハ種々ノ栖處ヲ營ム者ニシテ其中ニ

ハ頗奇ナルモノアリ且ツ大概獨居スレバ或ハ大群相集ヒテ棲息スルモノアリ總ヘテ此類ノ蠟タル間ハ暫時ニシテ忽驚クベキ變化ヲナシ或ハ自蠟ヲ造リ木葉ヲ以テ之ヲ覆フモノアリ或ハ地下ニ隱ルモノアリ或ハ穴又ハ屋隅ニ潛入シテ體ヲ空ニ懸ルモノアリ
 蠟ハ其形ヲ變化スベキ期ニ近ツケハ大勞力ヲ以テ其皮ヲ破リ蛹ト成リテ出ツ斯テ驚クベキ作爲ヲ以テ全ク其舊皮ヲ脱シ繭ヨリ跂出シテ遂ニ其袋ヲ破リ光澤アル美麗ハ蝴蝶ト成テ輕

浮ナル翼ヲ鼓シ花ヨリ花ニ移遊ス斯ノ如キ變
化ヲ經サン間ハ未ダ全キ運動ヲ爲サハルモノ

第千八百八圖



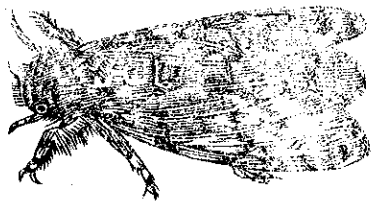
蝴蝶

ナリ
蝴蝶 此美麗ナル小蟲ハ其變種
無數ニレテ大小種々々々世界ノ
各所ニ棲處スレトモ氣候温暖ノ
地方ニ産スル者ハ最大最麗ナリ
其翼四個アリテ光澤美麗ノ粉末
ヲ被リ脚ハ六個アレドモ其用ニ
供スルモノハ只四個ノミ蝴蝶ノ

生産スルリ既ニ蠶ノ糸ニ詳説セリ

蛾 此小蟲ハ其種數多アレドモ習作ハ大抵皆
相類シテ蝴蝶ニ彷彿タレトモ其餌食ヲ索ムル

第千八百九圖



獨蝶蛾

コハ夜間ニ在リ此蟲ハ他ノ小
蟲ノ如ク卵ヨリ孵化シテ其形
體最初ハ小ナル蠶ニ似タリ斯
ノ如キ形狀ノ間ハ甚害ヲナレ
テ毛布絹毛皮柔皮等ヲ餌食ス
此蠶形ヨリ蛹ノ如キ形狀ニ變
シ遂ニ全ク成長シテ蛾ト成ル

又時トシテハ之ヲ夜間蝴蝶ト名ツク此蛾ハ植
物ノ甘キ液汁ヲ食ヒ短命ニシテ一夏ヨリ長ク
ハ生存セサルモノナリ蜂ノ条ニ記載セル
蛾ハ即チ蛾ノ大ナル種ナリ

此小蟲ハ元來支那ノ北部ヨリ齋
ニレテ之ヲ養育スルヲ漸々歐羅巴及亞米利加
ニ廣布ヤリ此小蟲ハ大凡六週間黒桑或ハ白桑
ノ葉ヲ餌食シ此間ニ四回其皮ノ變ニ而後桑葉
ヲ食フヲ止メ適宜ノ地位ニ就キテ細絲ヲ出
シ白色又黄色ナル卵圓形ノ繭ヲ造ル其大サ殆

第一千九十圖



蠶、繭、蠶卵、蠶蛾

相合シタル纖維ヲ以テ集成セシモノニテ其長

界 幼 小 二

ト 鴿 卵 ノ 如 シ 斯 テ 蛹 ニ 變 シ

大 凡 十 四 日 間 ニ シ テ 又 蠶 蛾

ト 成 リ 卵 ヲ 産 ミ テ 速 ニ 死 ス

繭 ハ 大 概 蠶 蛾 ノ 生 セ サ ル 前

ニ 方 テ 蠶 蛹 ヲ 殺 ス 爲 ニ 之 ヲ

強 キ 熱 度 ニ 當 ル 者 ト ス 其 故

ハ 蠶 蛾 ヲ リ 着 色 ノ 流 動 物 ヲ

出 シ 絹 ノ 品 位 ヲ 害 ス ル ヲ 以

テ ナ リ 繭 コ リ 出 ル 絲 ハ 二 條

十九十丈乃至百二十丈アリ又絹帛ノ製造ニ至
 テ大古ヨリ世人認知セル所ノモノタリ
 モス奈ト 此煩悶厭フ可キ蚊ハ他ノ動物ノ血
 及花蜜ヲ餌食ス其鼻ハ圓管ニシテ尖端ニ二個
 ノ唇ヲ有セリ吸管ハ五條ノ絲ヨリ修成セルモ
 ノニテ此絲ヨリ刺劍ヲ出ス又雌蚊ハ卵ヲ水面
 ニ産ミテ之ヲ推壘シ此卵孵化シテ子子ト成リ
 池溝ノ潦水ヲ游泳ス斯テ子子ヨリ蛹ト名クル
 動物ニ變シテ終ニ蚊ト成ル熱帶諸國ニテハ蚊
 ノ大ナル種類夥多アリ其咬ムト頗有毒ニシテ

大ニ諸動物ヲ苦惱セシムルモノナリ
 蚊 此小蟲ハ體細ク脚長クシテ二個ノ翼ヲ具
 シ他ノ動物ノ肉ヲ破リテ其血ヲ吸フベキ一管
 ヲ育ス熱帶地方ノ潦水中ニ夥多産シテ或ハ身
 長六寸許ノ大ナルモノアリ或ハ肉眼ヲ以テ見
 ル可カラサル小サキモノアリ蚊ハ初メ卵ヨリ
 孵化シ後ニ蛹ノ如キ形狀ニ變シ終ニ翼ヲ生ス
 ル者ナリ又蚊ニヨク肖タレト吸血管ヲ具セス
 シテ血ヲ吸ハサル一種ノ蟲アリ之ヲ鶴蠅カノウバ譯ト
 名ク而シテアトシトモ亦蚊ニ酷肖シタル小蟲ナ

リ苦蚊ハ合衆國ノ南部ニ産スル大蚊ニレテ頗
有毒ノモノナリ

蠅 此小蟲ハ世人ノ能ク認知セル者ニシテ數
屬數種アリ其體ハ頭ト胸ト腹トノ三部ニ分レ
テ透明ノ翼ヲ有セリ蠅ハ皆兩翼部ノ目中ニ屬
スル蚊、蝨及他ノ小蟲類ノ如ク兩翼ヲ有シ卵ヨ
リ生レテ其孵化スルトキハ蛆形ノ如キ形狀ヲ
ナレ又蛹ノ如キ状態ニ變レ終ニ具翼小蟲ト成
ル或ハ數時間生存スルモノアリ或ハ數日間或
ハ三月ノ間或ハ又六八九月ノ間生活スル者ア

リ總テ蠅ノ産スル蛆ハ食物腐肉等ヲ以テ食ト
ス又之ヲ蠅蛆ト名ク其體ハ柔軟ニシテ足ヲ具
セズ蓋蛆ノ蠅ニ變スルハ大概一二日ノ間ニ在
ルナリ

馬蜂 ツンバハ
ホルスズイ 此小蟲ハ世人ノ能ク認知セル所ニシテ
牛馬ノ脊上ニ止リ其血ヲ吸フ者ナリ蜚蠊ト名
クル馬蜂ノ一種ハ家畜獸ノ皮ニ穴ヲ穿テテ其
中ニ卵ヲ産ス此卵孵化シテ蛆トナルトキハ其
兩親ノ穿チレ傷口ヲ餌食シ牛、羊、馴鹿、馬等ヲ惱
マレ往々之ヲ殺害スルニ至ルコトアリ

無脊動物

第二類 多肢動物 一名 射形部

此網ハ動物界中ノ最下等ナル者ヲ包有セリ此
網ニ屬スル者ハ知覺ニ微ニシテ五感全ク備ハ
ズ太ク植物ニ似タリ其種中ニハ實ニ動物ト
植物トノ分界ヲ定メ難キモノアリ
此網ノ動物ヲ射形部ト名クル所以ハ其形體恰
モ體ノ中心ヨリ光線様ノ枝極ヲ發生スレハナ
リ海盤^{ステルビス}車ノ如キハ是其一例ナリ又此動物ノ神
經系ハ甚詳明ナラサレドモ善ク之ヲ穿鑿スル

トキハ中心ヨリ發出セル枝極ニ布置セルモノ
ノ如シ亦種ハ有得スベキ口ヲ具シ他種ハ口ヲ
有セスシテ餌食ヲ穴孔ヨリ吸入ス網中ノ諸動
物ハ其形體恰モ枝極ノ如ク植物ニ酷肖セルカ
故ニ之ヲ總稱シテ植蟲ト名ク
グザール氏多肢動物ヲ分ケテ五目ト爲ス即左
ノ如シ

第一目 海盤車類

第二目 體內蟲類

第三目 水母類

第四目 植蟲類

第五目 顯微鏡蟲類

第一目 海盤車類

海盤車^{ヒトデ}即海星屬^{ヒトデ}此奇ナル屬ハ各所ノ海岸ニ
 居住^{ヒトデ}シテ其色同一ナラズ時トレテハ水面ニ浮
 漂^{ヒトデ}セル凝液^{ヒトデ}等ヲ^{ヒトデ}云フ一塊ノ如ク見ユルモノ
 アレトモ通常ハ輪廓ナキ車輻ノ如キ形體ヲ爲
 シテ巖石ニ固着ス其最尋常ノ種ハ五個ノ枝ヲ
 有スルニ因リ通例之ヲ五指起重器^{ヒトデ}ト名ク口ハ
 其中心ニアリテ五枝ノ下部ニハ^{ヒトデ}氷蟲^{ヒトデ}口鬚^{ヒトデ}ト名

第千九十一圖



五指起重器

クル鬚ヲ多ク生セリ此鬚ハ一
 個ニシテ四千條ヲ有スルモノ
 往々之アリ又海盤車ハ夜間燐
 光ヲ放ツモノニシテ常ニ蟲類
 及介類ヲ餌食ス
 海膽屬^{ヒトデ}此屬ハ海中ニ産スル
 動物ニシテ隨意ニ動クベキ刺^{ヒトデ}ト石灰質ノ殻ト
 ヲ以テ體ヲ被覆セリ其殻ハ數片ノ稜角形ヲ密
 布セシモノニシテ其足ヲ出ス爲メニ數百ノ孔
 穴ヲ開ケリ又此屬ハ足ト刺トヲ以テ徐々ニ運

動シ常ニ足ヲ以テ小介類ヲ捕ヘ之ヲ餌食ス

第二目 體內蟲類

此目ノ動物ハ他ノ動物體內ニ棲息スル爲ニ著明ニシテ屢己ノ住處マル動物ヲ害スト云フ此動物ハ何故ニ他物ノ體內ニ占居マルカハ之ヲ説明スルヲ甚難シ又此動物ハ更ニ運動及呼吸ヲナサバレルモノ、如シ

幾内亞蟲 此動物ハ熱帶地方ニ尋常ニシテ其形體ハ蚯蚓ノ如ク大サハ鴿ノ羽莖ニ均シ人體ノ皮下ニ穿入シ數年間棲息シテ數尺ノ長サニ

成長シ人ヲシテ烈シキ疼痛及拘攣ヲ起サレムル者ナリ

絲蟲屬 此蟲屬ハ皆人體中ニ生スル者ニシテ

其種數多アリ形體ハ恰モ單一ナル鏈ノ連接セルガ如ク其連接スル處ニ口及他ノ部分ヲ具有セリ此蟲ハ往々長サニ丈ニ達シ罕ニハ十丈ニ及フ者アリテ人間ニ甚シキ害ヲ爲シ屢功能灼然タル藥劑ヲ用井ルトモ之ヲ驅逐スルコト能ハサルヲアリ
此他尚動物體中ニ生スル蟲類數多アリ或ハ獸

類ニ居リ或ハ鳥類ニ居テ其總計大凡千二百種
アリト云フ

第三目

水母類

此目ノ動物ハ海中ニ棲息シ稀薄ナル凝液ノ塊
リタルモノ、如ク見ユレハ其體ヲ膨脹收縮シ

第千九十二圖



アカレハ

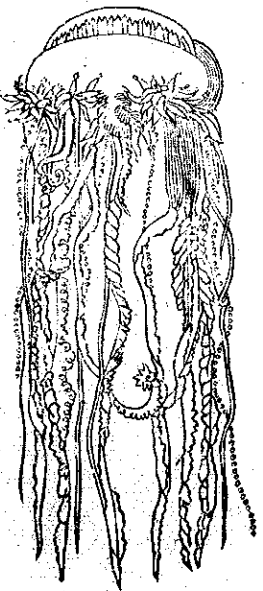
テ以テ水面ニ泛浮シ常ニ大群ヲ
成レ夜間ニ至レバ燐光ヲ放テ海
中ヲ照ス者ナリ又此目ヲ海蕁麻
ト名ク其故ハ手ニテ之ノ觸メハ
蕁麻ニ觸シ如ク竦然タル辛痛ヲ

覺ユレハナリ

水母屬 此膠質動物ノ一屬ハ植物家ノ花繖ト

名クル菌頭ニ似タル凸圓形ノモノヲ具セリ或
ハ口ヲ有スル如ク見ユルモノアリ或ハ花繖上

第千九十三圖



カツラノニボレ
ビーサリア

ニ鬚ヲ具シ之ヲ以
テ其餌食ヲ吸入ス
ルモノアリ最尋常
ノ種ハ涸潮ノ際佛
蘭西ノ海岸ニ居ル
モノニシテ此種ノ

花繖ハ直徑大凡二尺アリ水母ノ種類ハ殆ト各所ノ海中ニ散布シテ又鯨魚ノ餌食トナル茲ニ記載セル圖ハヒトサリト名クル水母ノ一種ヲ示スモノナリ

第四目 植蟲類

此目ハ多肢動物綱中ノ最大最奇ナルモノ、一目タリ其動物ハ形體圓錐狀ニシテ體ノ中心ニ口ヲ有シ其周圍ニ鬚ヲ生ス某種ハ植物ノ形體ヲナシタル巢ヲ有シテ其形狀ハ總テ植物ニ異ナラス又此目ノ動物ハ目ト口ト血液循環ノ機

第一千九十四圖



類珊瑚作ノ植蟲

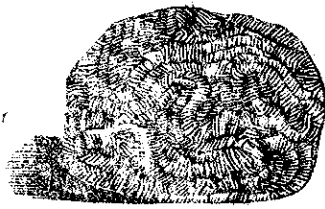
關並ニ呼吸ノ機關トヲ具セザル者ニシテ大概其生活スル勢力ハ體中ニ布漫セリ故ニ世人若シ其ノ一片ヲ切斷スレハ切片速ニ成長シテ全備ノ者トナルベレ斯ク成長スルトト萌芽ヲ出ス景況トハ大ニ植物ニ似タリ往々此

動物ノ多數相共ニ固着シテ一個ノ聚成動物ニ化シ其各自ノ生活ト共存ノ生活トヲ爲スモノ

アリ又此動物ノ過半ハ自然堅石ノ如ク固着セ
ル巢ヲ造リテ其中ニ居住セリ

淡水植蟲 此動物ハ凝液ノ小塊ノ如キ形體ヲ
ナシテ溝渠ノ水底或ハ葉ノ裏

第一千九十五圖

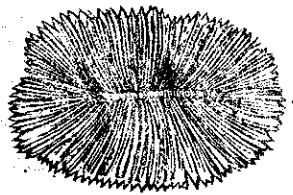
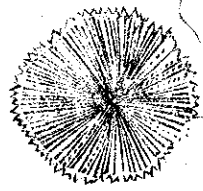


石梅蟲ノ造リシ石質ノ
物體之ヲ腦石ト名ツク

面等ニ居ル者ナリ海植蟲中ニ
テ最著名ノモノハ石芝海綿石
梅等ナリ石梅ハ美麗ニ枝莖ノ
生レタル茂樹ノ形狀ニシテ往
々恰モ灌木園ノ如ク海中ノ深
所ニ造成セル者ナリ其植蟲ハ

至微ナルモノニシテ其水面上ニ抽出セル植蟲

第一千九十六圖



石芝

ノ巢ノ孔穴ハ見エ難シト云フ
海綿植蟲 此植蟲ハ凝液ノ一塊
ヨリ成ル者ニシテ海綿ノ孔穴中
ニ棲息シ其孔穴ヨリ餌食ヲ受容
セリ腦石ハ石灰質ノ物ヨリ成リ
タル大巢ヲ一處ニ合集シテ其孔
穴中ニ棲息スルモノナリ其工作
ノ廣大ナルヲハ全世界中ノ人工
ニ超過セリ太平洋諸島ハ大概海

底ヨリ此小動物ノ建築シタルモノトス現今地球中ノ某山ハ元來此動物ノ造リタルモノト想定セリ貿易ノ物品タル珊瑚モ亦植蟲ヨリ産スルモノナリ

一種ノ石芝ハ紙片ノ如ク薄クシテ其中心ヨリ四方ニ射出スル光線ノ如キ形狀ヲナセリ

菟葵^{イリキルナキ}希^{アチモン} 此奇ナル動物ハ其種數多アリテ某種

ハ亞米打^{アチモン}加ノ海濱ニ尋常ノモノナリ昔時ハ菟葵^{イリキルナキ}希^{アチモン}ヲ植物中ニ列シタルドモ運動スベキ勢力アリテ大概海中ノ巖石ニ粘着ス又其脚ヲ切斷

スルトキハ速ニ之ヲ補ヒ常ニ海中ニ産スル處ノ見ル可ラサル微蟲ヲ餌食ス

第五目 顯微鏡蟲類

此目ノ動物ハ至微極細ニレテ顯微鏡ノ發明以來發見シタル者ナリ若シ此鏡ナクバ決レテ之ヲ見ルヲ能ハサルベシ又此動物ノ過半ハ膠質ノ體軀ト甚單一ナル機關ト有レ凝液ノ小塊ノ如ク見ユル者ニシテ大概動植兩物ノ質ヲ混合セル水中或ハ熱シタル空氣及日熱ヲ受容セル水中ニ居ル者ナリ顯微鏡ヲ以テ之ヲ窺フト

キハ蛇類及蚯蚓ノ如キ形體ヲ有レテ甚敏捷活潑ナルヲヲ瞭視スベレ
 顯微鏡ヲ以テ細心ニ此微蟲ヲ視タル人ノ説ニ
 二個ノ微蟲相共ニ他ノ一個蟲ヲ捕ヘテ其兩端
 ヲ握リ互ニカヲ極メテ之ヲ左右ニ牽引シタリ
 ト又時トシテハ一個ノ微蟲ハ其餌食スベキ蟲
 ノ甲端ヲ食ヒ他ノ微蟲ハ乙端ヲ食ヒテ雙方ヨ
 リ食ヒ近ツキ遂ニ兩口相接スルニ至ル此時兩
 蟲ノ暫時ノ間食事ヲ止メ中央ヨリ之ヲ斷テ各
 其一片ヲ携ヘテ退去レタリト云フ

斯ク二個ノ微蟲一個ノ蟲ヲ争ヒ食フ間ニ兩口
 相接スルトキ甚奇ナル争鬪ヲ起スト往々之ア
 リ斯時最大ナル微蟲ハ争フ所ノ餌食ト共ニ小
 ナル敵手ヲ捕ヘテ之ヲ吞ムトアリ然レドモ其
 吞コレタル不幸ノ微蟲ハ却テ之カ爲ニ幸ヲ得
 ルモノ、如レ蓋吞マレシ處ノ不幸ナル微蟲ハ
 渠ノ腹中ニ大約一時間モ留マリタル後争鬪ノ
 淵源クル餌食ヲ携ヘ無害ニシテ腹外ニ突出ス
 ト云フ
 フロチエリス屬 此屬ハ沼澤ニ生レテ絶ス其形

博物學 卷九 五

體ヲ變化ゼリ一瞬ノ間ニ圓形トナリ後又樹枝
搦ノ形體トナル斯ノ如クレテ甚レキ變化ヲナ
スモノナリ

醋鰻 多クハニシ 此動物ハ二唇ヲ具ヘシ口ト食道トヲ有
スルモノニシテ常ニ醋ノ中ニ栖處レ縱令醋ノ
凍互スルヲアリトモ決シテ凍死セズト云フ

輪蟲 ホトケラ 此動物ハ車輪ノ如ク軸上ニ回轉セル圓
形ノ體軀ヲ有シ衆多結合シテ往々一塊トナル
モノアリ其回轉スルトキハ水中ニ渦紋ヲ起シ
テ其渦中ニ微蟲ヲ引キ入レテ之ヲ捕ヘテ餌食

ト
極微蟲 此動物ハ世人ノ認知セル諸動物中ノ
至微極細ナル者ニシテ只其運動力ヲ有スルニ
因リ之ヲ生活物ト定ムルノミ其一種ハ梨子ノ
葉肉中ニ棲息セリ又水ノ一滴中ニ此至微ナル
動物ノ算ス可ラサル大數ヲ含蓄スル云フ

神原芳野 校

具氏博物學卷之九終

明治十一年十月廿三日御届
同 十二月十日出版

翻刻出版

京橋區桶町七番地

中村熊治郎

芝神明前

發賣人

山中市兵衛

函館大町三丁目

同

常野嘉兵衛

同 小樽山上町

同

常野 十平

同 内澗町

同

植田 清司